

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 1月 日

協議会名:本庄市交通政策協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持補助事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	<p>○予約ルールの変更、停留所の見直しなど、市民・利用者の声を反映する形で改善を進めた。</p> <p>○自治会など地域コミュニティの協力を得て、説明会を開催した。</p> <p>○前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標利用者数 :26,500人 H28年度利用者数:13,522人</p> <p>B 目標に対する実利用者数の割合は52%(前年度:57%)であった。利用者数は前年度比10%減となったが、交通不便地域(児玉山間地域)では前年度比10%増となる等、新たな需要の高まりも確認できた。交通弱者の移動手段としての定着は確実に進んでいる。</p>	<p>運行開始から3年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化が課題の一つである。これまで小さな改善を重ねてきたが、利用者離れを起こさないよう満足度の向上に取り組む必要がある。また、運行方法や予約システムの抜本的な見直しを検討していく必要がある。</p>
	本庄南地域デマンド				
	児玉市街地デマンド				
	児玉山間地域デマンド				
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	<p>○シャトル便を運行している本庄駅ー本庄早稲田駅間に競合(*)する路線バス(民間2路線)がある現状を踏まえ、今後のシャトル便のあり方について議論を進めていくことを確認した。</p> <p>(*)H25.10運行開始時にはシャトル便のみだった路線に、現在は2事業者が乗り入れている。</p> <p>○前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標利用者数 :17,300人 H28年度利用者数:10,953人</p> <p>B 目標に対する実利用者数の割合は63%(前年度:60%)であったが、利用者数は前年度比4.5%増であり、利用者数の増加傾向が続いている。交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進んでおり、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与している。</p>	<p>③に記載のとおり、シャトル便を取り巻く環境が運行開始時から変化している。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要がある。</p>

・④事業実施の適切性 … A:適切に実施された B:実施されていない点があった C:実施されなかった

・⑤目標・効果達成状況 … A:目標を達成した B:目標を達成できていない点があった C:目標を達成できなかった